

「 歯の健康 」から「 全身の健康 」へ

これからの口腔保健

奈良県歯科医師会

歯周病医療の変遷 ～「歯の健康」から「全身の健康」へ～

1950～90年頃まで、歯周病の病態研究はプラーク細菌の感染、宿主・細菌の相互作用、分子生物学的解析へと発展を遂げました。その間、歯周病療法は「症状改善」からプラークコントロールによる「原因療法」へ、予防啓発も「Cure」から「Care」へとシフトし、歯周病医療の概念も「Quality of Life」を取り入れる方向に発展してきました。

しかし、1990年以降は“歯周病の発症は細菌によるが、感染への生体の防御反応産物、歯周病原菌やその内毒素（LPS）は病状の悪化だけでなく、全身にも負の影響を与える”という概念が台頭し、1990年代中頃には歯周病と全身の関係を示す病態研究がみられ始めます。

こうした研究により、生活習慣病をはじめとした“全身疾患”と歯周病の深い関連性が明きらかになり、それに伴って歯周病医療の概念も「歯の健康」から「全身の健康」を目指すものにシフトしてきました。

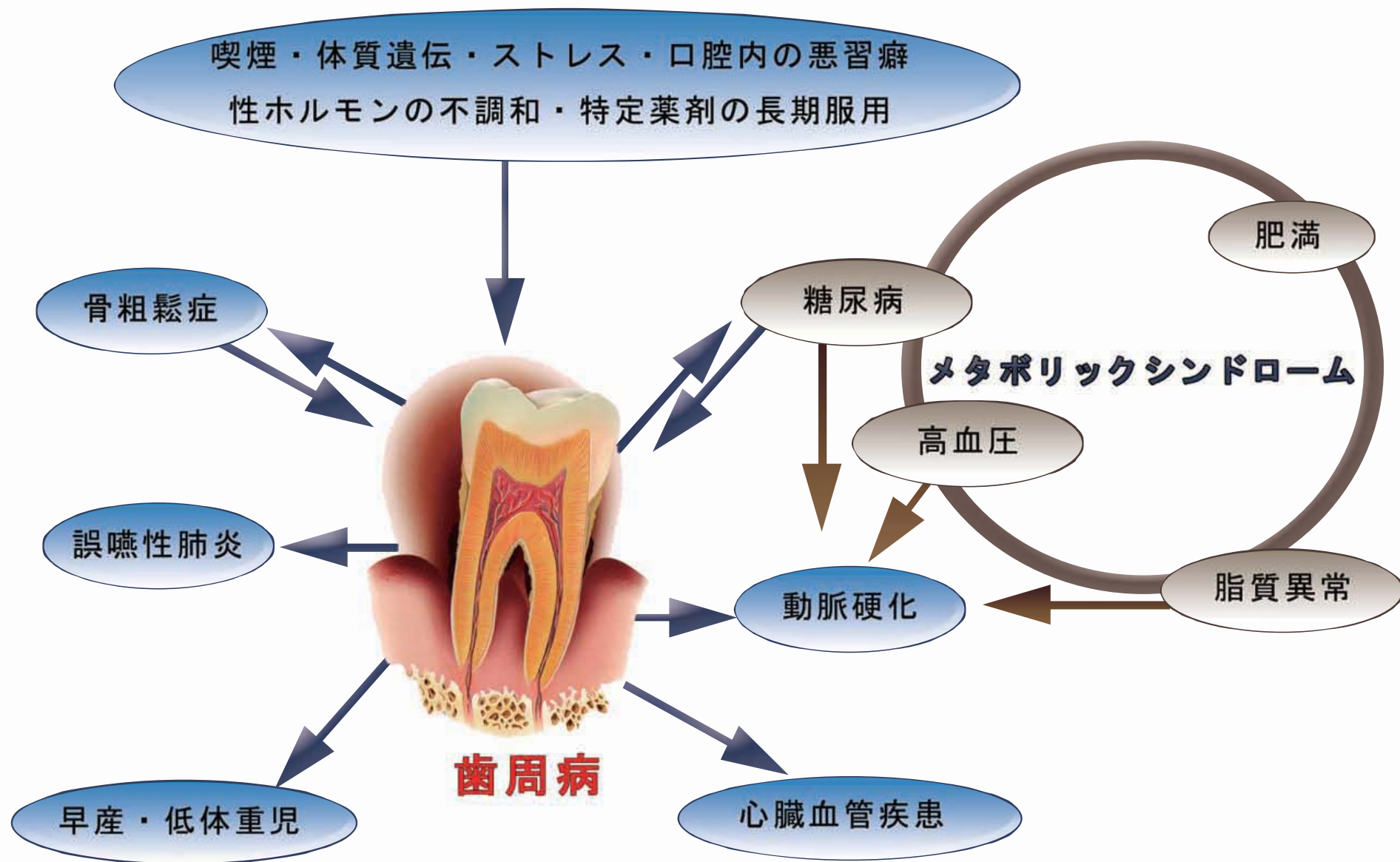
歯周病療法 症状改善 ⇒ 原因療法
予防啓発 Cure ⇒ Care
歯周病医療の概念 QOLの取り入れ



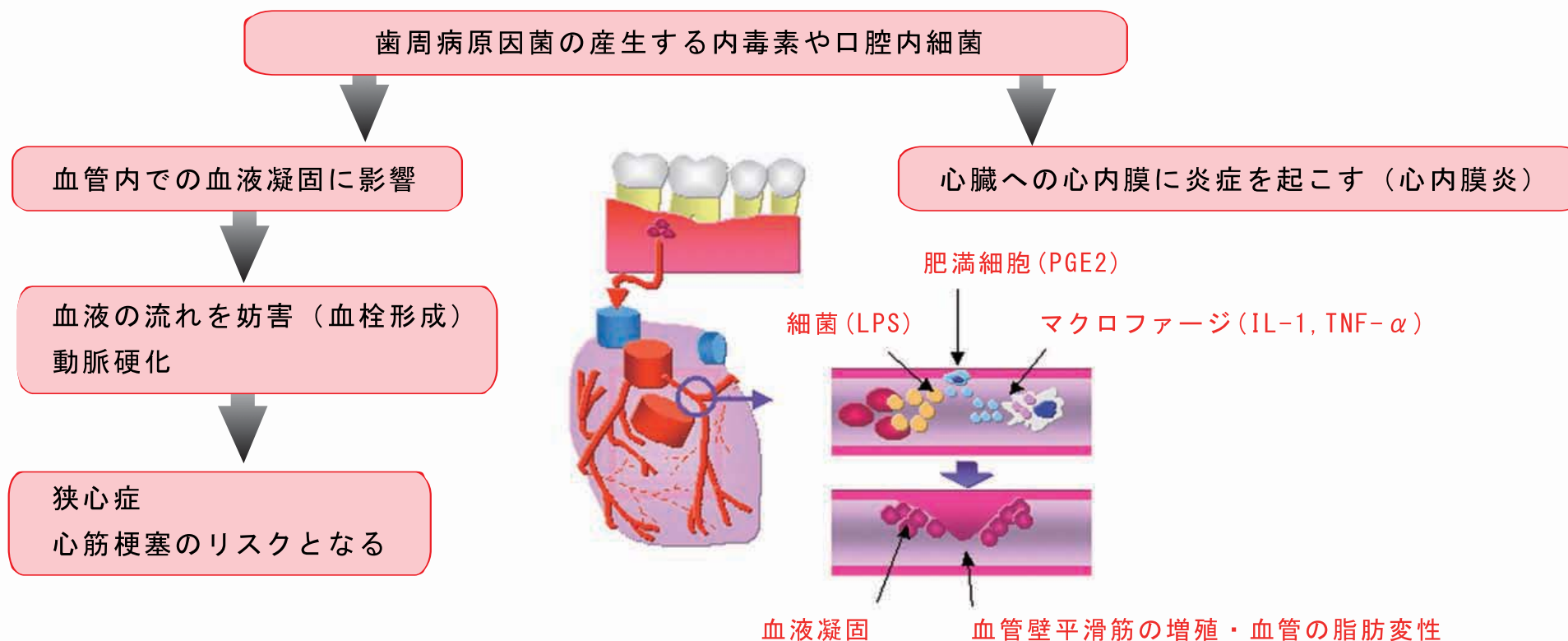
1990年代中頃

全身疾患と歯周病の深い関連性
歯周病医療の概念
歯の健康 ⇒ 全身の健康

歯周病と全身疾患との関わり



歯周病と循環器系疾患・・・歯周病に罹っている人は罹っていない人の2倍の確率



歯科治療に際しての留意点は

- ◎医科主治医との連携や患者さん本人とのコミュニケーションにより、現在の状態を的確に把握しておくことが必要不可欠です。
- ◎抗血栓剤（血をサラサラにする薬）を服用している方は、必ず歯科医師に伝えましょう。歯科治療の抜歯・切開・歯石除去など観血処置の内容によっては、服薬を減量したり中止していただく場合があります。
狭心症の発作のある方は、ニトログリセリン・フランドルテープなどの亜硝酸剤を必ず持参して下さい。
降圧剤を服用している方で低血圧を起こしやすい場合は遠慮なく歯科医師にお伝えください。
- ◎長時間の治療を避け、なるべくコンディションの良い時間帯を選びましょう。（ストレスの緩和）

歯周病に脳梗塞リスク・・・脳梗塞の患者は歯周病菌に感染している割合が高い

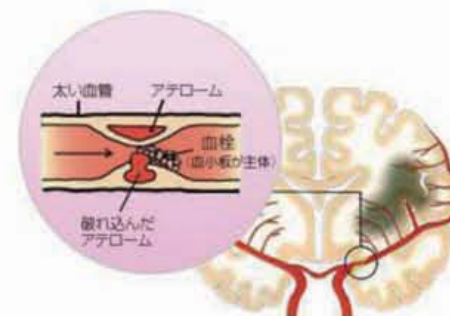
歯周病菌の抗体価

脳梗塞患者は脳梗塞でない人より**1.2倍**高い

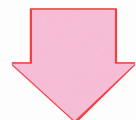
太い血管の動脈硬化が原因で起きる脳梗塞患者は脳梗塞でない人に比べて**1.4倍**高い

頸動脈が動脈硬化をおこしている人は**1.4倍**高い

脂質異常症の人はそうでない人より**1.5倍**高い



歯周病菌



血液を通じて
全身をめぐる

動脈硬化
脂質異常



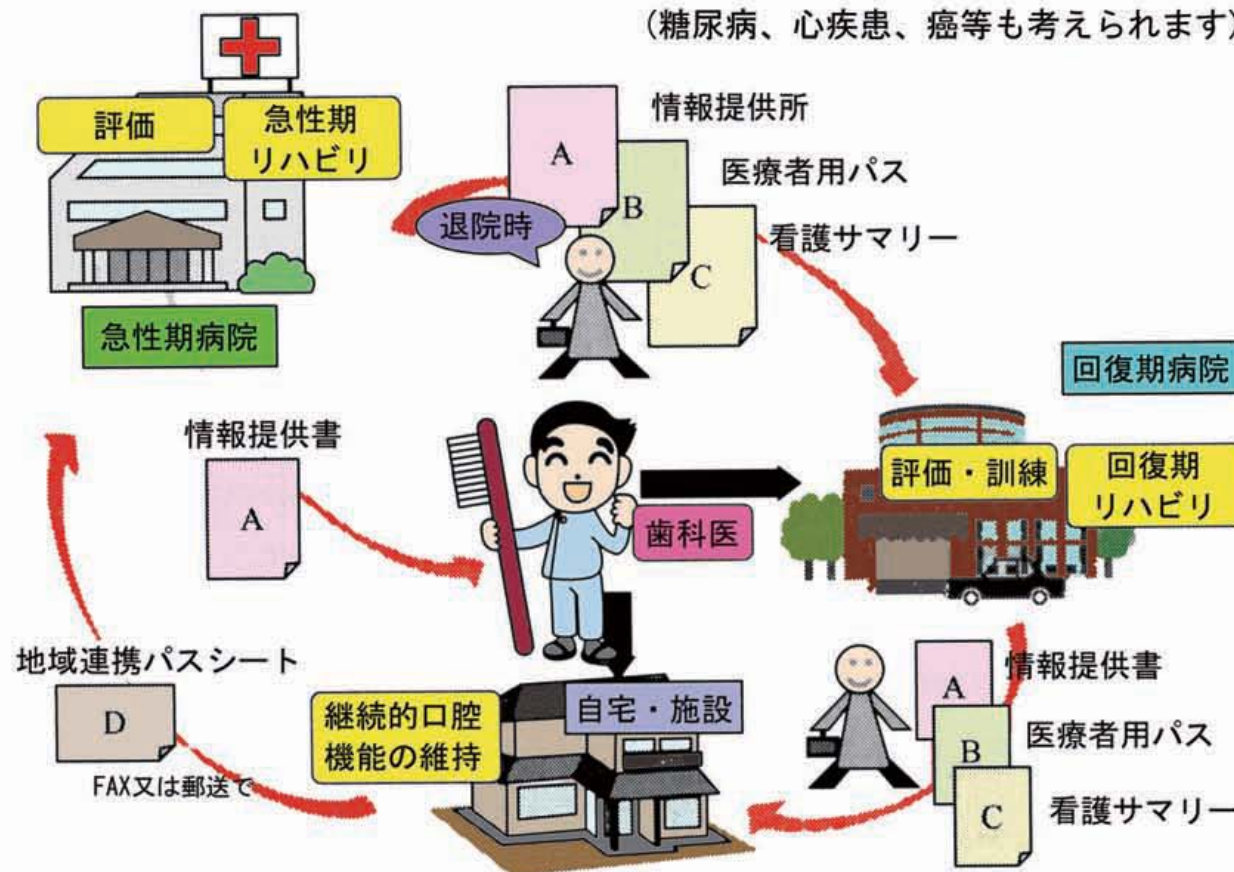
脳梗塞
心筋梗塞

歯周病は30代以上の8割がかかっている

見た目が悪いだけでなく
脳梗塞の発症を防ぐ為にも
歯周病治療が必要！

脳卒中地域医療連携パスの流れ・・・市川市の例

(糖尿病、心疾患、癌等も考えられます)



医科・歯科連携による糖尿病と歯周病へのアプローチ

糖尿病

内科医のアプローチ

糖尿病になると歯周病が悪化する

免疫機能低下・歯肉病血管障害
結合組織代謝異常唾液分泌低下を招く
歯周病は糖尿病の6番目の合併症

歯周病に罹患していると血糖コントロールが困難になる

重度の歯周病になると歯周病炎症層から侵入する歯周病原性菌に
対する生体反応の結果、TNF- α 等生理活性物質が算出され
インスリン抵抗性が惹起され、血糖コントロールが悪化する

歯周状態が悪化すると糖尿病を助長する食生活に陥りやすい

ミネラル類・ビタミン類
食物繊維が摂取不足になり
炭水化物の摂取が増加

噛みにくい
食品を避ける

歯の動揺・喪失

歯周病

歯科医のアプローチ

- 血糖値のコントロール
- 食事・運動指導
- 合併症防止の為に病診・診診連携

- ◎糖尿病と歯周病との関連性を理解する
- ◎糖尿病患者を歯科医院へ紹介する

医科・歯科連携



- 糖尿病患者に対する各歯科医療機関の役割明確化
- 専門歯科医と一般歯科医の連携

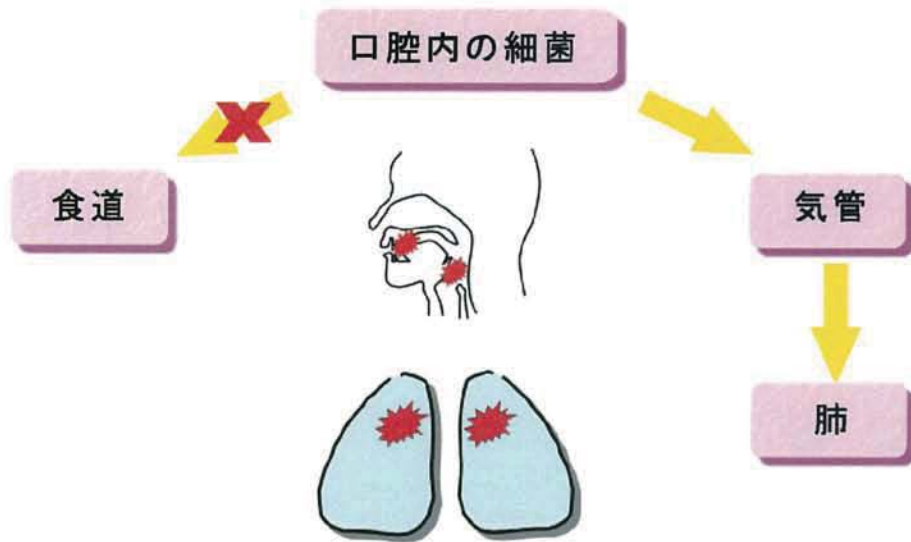
- ◎歯科医院で行う生活習慣の指導の充実
- ◎口腔清掃を中心とした健康管理の評価
- ◎咀嚼機能の回復(通常の歯科治療)

H20年度地域保健総合推進事業「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」より改変

誤嚥性肺炎・・・癌、心臓病、脳卒中に次いで日本人の死因の第4位を占める呼吸器疾患

高齢者・寝たきりの方など

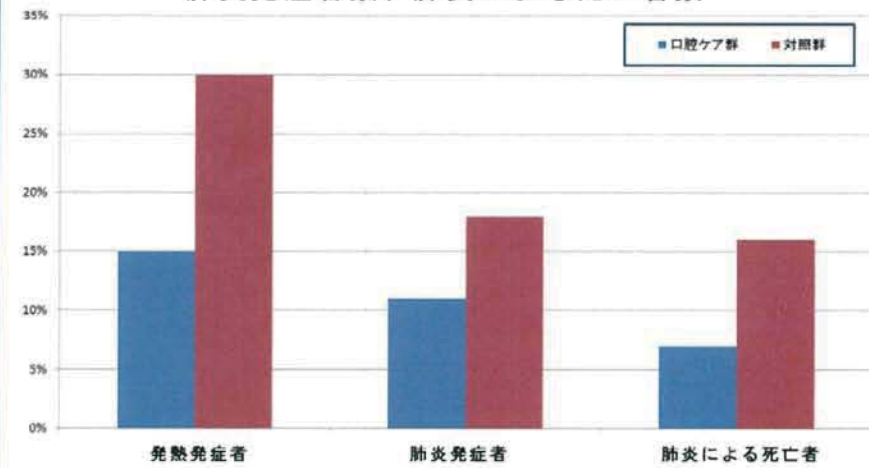
嚥下（飲み込み）機能が低下してくると・・・



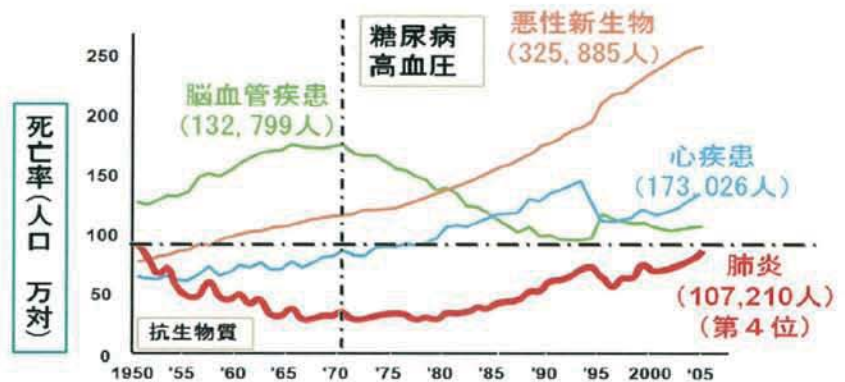
歯周病原菌が肺・気管支に感染して肺炎を発症

口腔内の清掃によりリスク低減が可能
口腔ケアを定期的に

口腔ケア群と対照群の発熱発生者数
肺炎発症者数、肺炎による死亡者数



日本における死因別にみた死亡率の年次推移



() 内は、2005年のデータを示す 2005年人口動態統計月報年計(概数)の概況より作成

歯周病と骨粗鬆症・・・骨粗鬆症患者1100万人（内女性患者900万人）

骨粗鬆症は女性ホルモンの激減する50歳以降に多い

骨粗鬆症とは骨の形成と吸収のバランスが崩れることによって骨量が減少し、骨の微細構造が脆弱化する病気です。

全身の骨の状態は歯槽骨や歯と深い関係があります

骨粗鬆症に罹患している人は歯槽骨の吸収も大きい
歯を失う人は全身の骨の骨密度も低下しやすい

カルシウムが不足すると歯周病や歯の喪失にも影響します

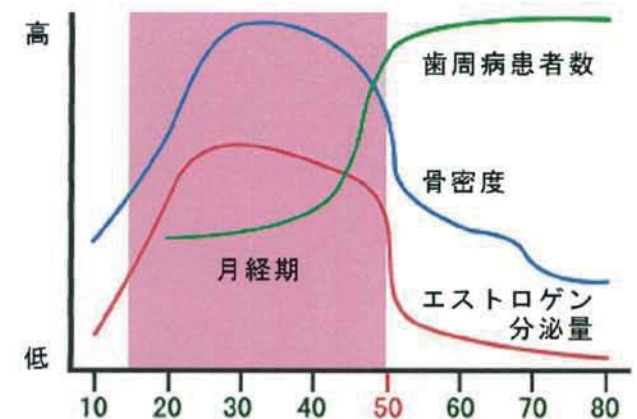
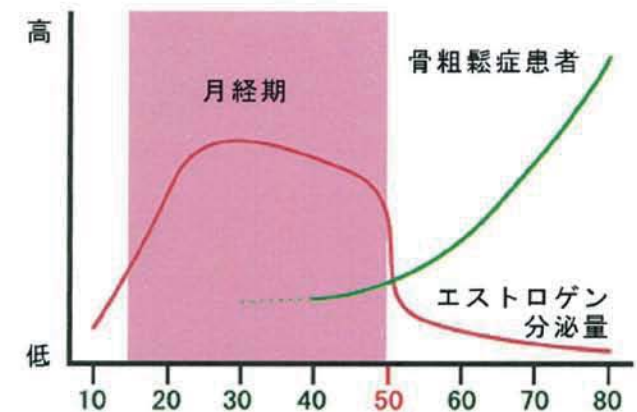
カルシウムやビタミンDの摂取量が 歯周病リスクや歯の喪失に影響
カルシウムの食事摂取基準600～700mg/日（妊産婦は800～1200mg/日）

運動不足や過度の飲酒・喫煙もリスクファクターです

近年よく行われるようになってきたインプラント（人工歯根）も骨粗鬆症と密接な関係があります

〔ビスフォスフォネート系〕と称される薬剤の投与を受けている、又は受けた患者さんにおいて、「顎骨壊死」「顎骨骨髓炎」が発現したと報告されています。報告された症例の多くは抜歯等の侵襲的歯科処置、義歯による褥創や局所感染に関連して発現しており、特に抜歯した場合にその部位付近で発生しています。

現在国内で販売されているビスフォスフォネート系薬剤（経口剤）ダイドロネル フォサマック ボナロン アクトネル ベネット等
（注射剤）アレディア オンクラスト テイロック ビスフォナール ゾメタ等



ドライマウス患者急増中！・・・予備軍は3000万人？

唾液が出にくく

口の中まで乾いてしまうドライマウス

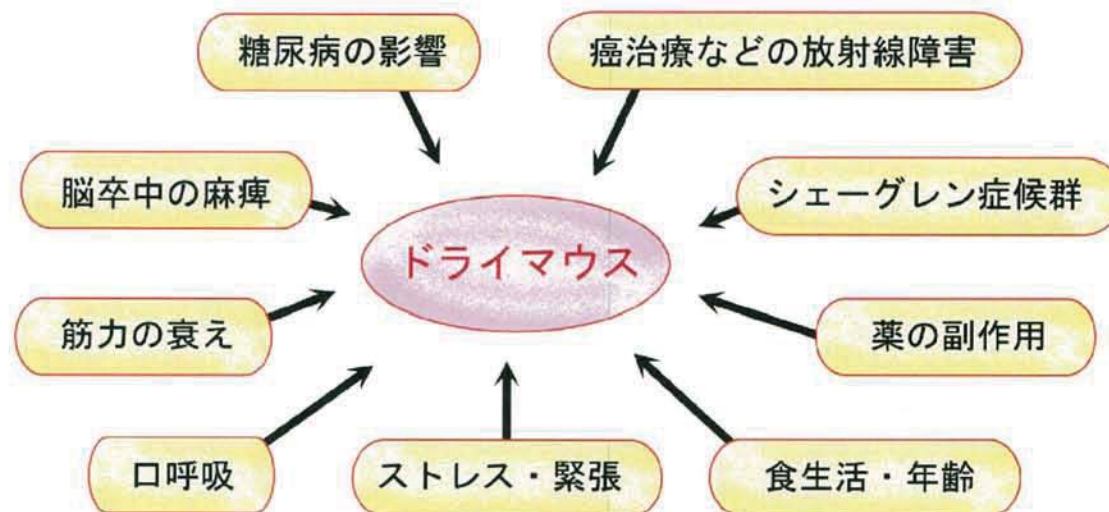
「口が渴いて夜眠れない」

「ネバネバしてうまく喋れない」

「食べ物がうまく飲み込めない」など

ドライマウスの症状を訴える

年配の患者さんが急増中です！



対策 ◎内科医師による糖尿病の治療 ◎保湿ジェル・人工唾液の使用 ◎漢方の処方 ◎ガム療法
◎咀嚼筋・咬筋のマッサージ(リハビリテーション) ◎歯肉・舌・唾液腺のマッサージ ◎ブラッシング



あなたのお口の粘膜に何かできていませんか？

口の中の粘膜の
状態が正常なのかどうか
わからない

病院に行くのが大変なので
このまま様子を見たいのだけど
もし悪いものだったら？

受診

歯医者は歯だけでなく
粘膜疾患も診てくれる

口腔外科が癌治療を
専門分野の一つにしている



白板症(ロイコプラキー)

- ・粘膜が肥厚して白色(白斑)になったものです
前癌病変の一つで癌化することもあります
- ⇒生検を行い、悪性度の確認をして長期の経過観察、時に外科的切除を行います



舌癌

- ・進行した舌癌の特徴は、潰瘍を伴う腫瘍で硬いです(硬結)
- ⇒切除手術と放射線療法が主体です(腫瘍の進行度に合わせて治療法を選択)
これに抗癌剤による薬物療法を組み合わせます



歯肉癌

- ・表面がザラザラとした感じの腫瘍で、顎骨へ浸潤する場合があります
- ⇒まず、放射線療法と抗癌剤による薬物療法をおこないます
その後、多くの場合切除手術を行います

歯周病と喫煙・・・歯科が禁煙に熱心なのはなぜ？

〔タバコが歯周病の最大原因〕

従来は**ブラークコントロール**を指導してきた

最近では

免疫機能・遺伝的資質・ストレス度・**生活習慣**が

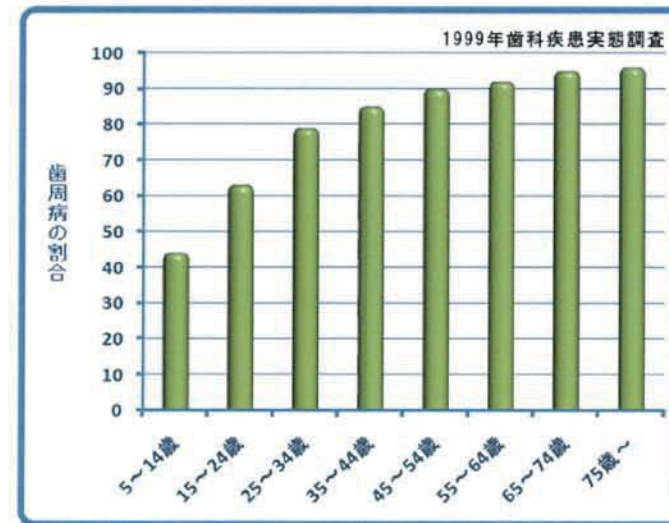
歯周病の原因に

大きく関係していることが分かってきた

生活習慣とは

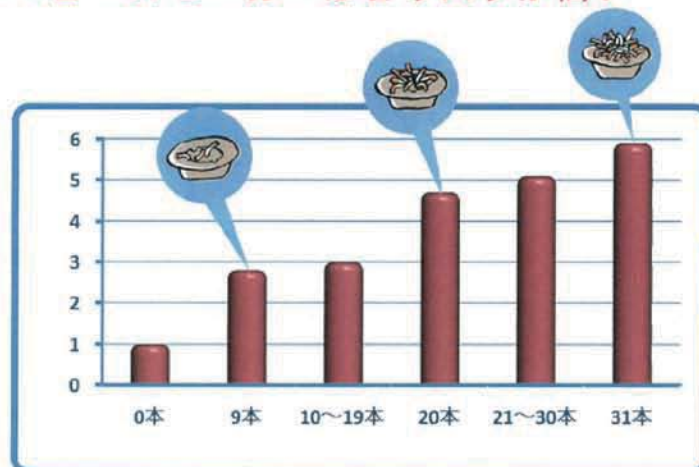
食習慣・運動習慣・休養・**喫煙**・飲酒等が含まれる

歯周病にかかっている人はこんなに多い



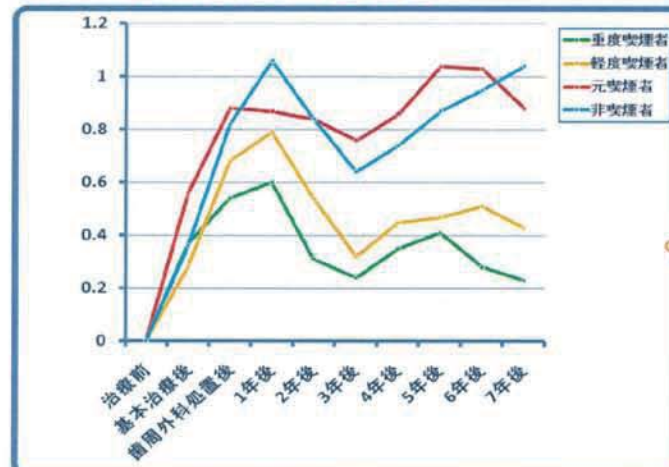
国民病と呼んでしまいたい程の数字です

ヘビースモーカーほどリスクが高い



タバコを吸えば吸うほどリスクは増えていきます

喫煙の歯周治療への影響



タバコを吸うことが歯科治療の邪魔をする

長寿社会の到来とともに、生活習慣病の克服が国民保健の大きな課題となっています。折りしも、健康増進法に基づいて策定された国民健康づくり運動「健康日本21」では、歯科疾患が予防すべき4つの疾患の1つとしてあげられています。

近年多くの調査から、全身疾患や生活習慣が歯周病の発症や進行に影響を与えるだけでなく、歯周病が生活習慣病に影響を及ぼし、QOLを低下させ、健康寿命を縮めていることがわかってきました。そして最近では、歯周病は口腔のみに限らず、全身の健康との関連で注目されることが多くなっています。

奈良県歯科医師会ではより活気ある日常生活をいつまでも送っていただけるように、皆様方の生活支援を心がけております。



お悩み・ご相談はお気軽に
県下歯科医師会会員の歯科医院に
お問い合わせ下さい。

(社)奈良県歯科医師会

TEL 0742(33)0861

HP <http://www.nashikai.or.jp>